

# 「人間万歳」

〈おはなし〉

神様が作ったたくさん星の一つに人間が生まれ、担当の天使は心配しながら見守っている。一方、天界では、神様が恋をしたり、悪魔が悪巧みをしたりと、いろいろな事件が起きる。ある日、隣の宇宙の神様がやってきて、あちらでは人間がすばらしい進化をしたと聞き、皆で「人間万歳」となえて踊ります。

笑いと風刺で、人間の可能性をたたえるナンセンスコメディです。



文藝座「人間万歳」舞台写真 大正14年

天界らしく見えるように、あなたなら、どんな舞台を作る？

・場所の設定は、神殿みたいな建物？

・深い森の中？

・雲の上？

・神様や天使の服装は、ギリシャ神話ふう？

・日本の神話ふう？

・キリスト教の宗教画ふう？

・照明の色は、清らかな白？

・神秘的なうすむらさき？

・ふんわりやさしいピンク？

・雰囲気盛り上げる音楽は、格調高いオーケストラ？

・澄んだ音色のハーブやフルート？

・厳かな雅楽？

・どんな音でも作れるコンピュータ音楽？

ほかどんな演出があるかな？

他の人にもきいてみよう！



## 知ってる？

実篤は、新しき村の劇団で、自分が書いた戯曲「だるま」のだるま役を演じました。周りで騒いでいても、ずっと壁に向かって瞑想を続け、最後に「喝っ」と大きな声を出すと、いたずら者たちがあどろいて腰を抜かす、という役で、実篤の「喝っ」はとても迫力があつたそうです。



村の会場「だるま」舞台写真 昭和3年

# もっと知りたい 武者小路実篤

## 実篤の戯曲③ 舞台に

武者小路実篤は、小説や絵だけでなく、戯曲もたくさん書きました。その中には、舞台でお芝居として演じられた作品も、いくつもあります。実篤の戯曲には、どんな作品があるのでしょうか。どんな風にお芝居になったのでしょうか。

いくつか見てみましょう。

### 「その妹」



劇団民藝「その妹」舞台写真 昭和26年

〈おはなし〉

画家の野村広次は戦争で失明し、小説家として出直そうとしている。妹の静子は、兄の才能を信じて、原稿を聞き書きしたり、借金をたのんだりして、懸命に助けるが、ある日、世話になっている叔父が勤める会社の、社長の不良息子の嫁になれといわれてしまう。兄妹はなんとか自立しようとするが思うようにいかず、ついに静子は、兄の生活を支えるため、縁談を受けることを決心する。

あなたが広次の役になったら、  
どんなふうに演じますか？

（妹が望まない結婚をするのを止めてあげられない事を嘆いて）  
広次。俺は今力がほしい。（泣く）

- ・座る？ 立つ？
- ・上を向く？ うつむく？
- ・手を差し伸べる？ 拳を握る？
- ・大きな声を出す？ 弱々しく言う？

ほかには、  
どんな表現があるかな？

ほかにも  
きいてみよう！



### ポイント

「その妹」は、実篤の戯曲で一番よく舞台上で上演された作品です。現代でもときどき上演されます。このほかに「愛慾」という作品もよく上演されました。この作品は、「画家が妻への嫉妬に苦しみ、次第に正気を失っていく、ちょっと恐ろしいお話です。